

報告

学会等における受賞 (2015年10月～2016年9月)

2015年度日本社会心理学会若手奨励賞 (2015.12)

- ・仁科国之 「評価懸念の神経基盤の解明：VBMによる検討」

日本人間行動進化学会第8回大会若手奨励賞（ポスター発表賞）(2015.12)

- ・仁科国之・高岸治人・井上-村山美穂（京都大学）・高橋英彦（京都大学）・山岸俊男（一橋大学）
「オキシトシン受容体遺伝子、バソプレシン受容体遺伝子と向社会的行動の関連」

包括脳 2015「未来枠」若手優秀発表賞 (2015.12)

- ・沖津 健吾 「動物の学習行動を統一的に説明する刺激と反応の履歴を考慮した計算論モデル」
- ・齊木愛希子 (2016年3月より広島大学) 「“Multi-Linc” an optogenetic/electrophysiological method to explore information flows among multiple brain areas.」

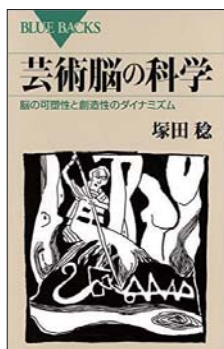
IEEE CIS Japan Chapter Young Researcher Award 2016 (2016.03)

- ・沖津 健吾 「パプロフ-インストゥルメンタル転移を再現する計算論モデル」

ロボカップ 2016 世界大会@ホームリーグ イノベーションアワード (2016.07)

- ・岡田浩之・根本太晴・八木下明宏

脳科学研究所の研究者による著書 (2015年10月～2016年9月)



『芸術脳の科学 脳の可塑性と創造性のダイナミズム』

塚田 稔著 講談社 2015年11月刊
200頁 994円 (920円+税)

第3回 脳科学研究所スポーツ大会 「木村杯」報告

恒例の脳科学研究所スポーツ大会「木村杯」が3月20日に開催された。第3回となる今年はボウリングが競技に選ばれ、町田ボウリングセンターにて脳情報研究科・脳科学研究科の大学院生から教授まで約25名が参加した。本大会のルールは、研究領域ごとに4チームに分かれて各メンバーが2ゲーム行い、獲得したスコアの平均で競い合うというもので、今年は家族での参加者も多かったことから女性は得点を2倍、こどもは4倍とするハンデ戦とした。概ねこのルールはうまく機能したのだが、こどもたちの予想外の活躍もあり、トップスコアが1ゲーム平均356点という異次元のものとなったのはご愛嬌である。ボウリング特有の好プレーと凡プレーの連続に一喜一憂しつつ、チーム対抗戦は和気あいあいとした雰囲気の中で繰り広げられ、普段の大学・研究所内とは違ったかたちでの交流を深める良い機会となった。

(脳科学研究所 松田研究室 高橋 宗良)

開催日：平成28年3月20日(日)

開催場所：町田ボウリングセンター

優勝チーム：サルチーム (坂上研究室・木村研究室合同チーム)



『絵本ものがたり FIND—見つける・つむぐ・変化させる—』

今田由香・大島丈志(編). 岩田恵子他(分担執筆)
朝倉書店 2016年5月刊
208頁 2,700円 (2,500円+税)
担当：「遊ぶ子ども—絵本と、絵本で、絵本から—」(該当ページ：10-19)

